



各事業所やフロアーに掲示

永 寿 会

虹の通信 第26号

2017年 9月 1日

戦禍の頂であった真夏を過ぎて思わなければいけないこと

私達の法人は介護事業や保育事業を進めておりますが、今後の組織や環境、存在する社会の行く末は難題が多いのではないのでしょうか？ 最近では、北朝鮮の金正恩独裁政権がミサイル開発や実験で周辺国や国際関係を混乱に落とし込めています。

日本では「万が一ミサイルが飛んで来たら、強固な建物や地下通路等に避難を！」の行政の緊急通知が出されたり、「防空頭巾を用意して避難訓練する！」など「えー」というのが最初に浮かび、そんなことで助かるのかなーというのが偽ざるを得ない印象です。今から70年以上前の「につくき米軍が上陸して来たら竹やりで一人必殺！」や、「ベニヤ板製の特攻艇で米軍の上陸艇を撃破せよ！」というのに似ていませんか？

何か次元が違っているのではと思います。一番問われるのは政治です。行政に対策通知を出させるよりも、政治家が命がけで調整すべきことではないのでしょうか？

国対国で、あるいは国連で、国際連帯で詰めなければならない課題です。非公式に関係材料や資材を輸出したり、技術援助をしたりしている利害関係や思惑が国家間で跋扈しているのです。英霊として庶民の戦争犠牲者を掲げながら、戦火を招くきな臭い状態を作っているのが現在ではないのでしょうか？

こうした中で、私達は組織の中で心に留めて進んでいかなければならないことは、72年前までの戦時下とその後の生活苦を経験した多くの庶民である介護サービス受給者の高齢者の皆さんに日々接している現状から如何に学ぶかです。それが極めて重要なことと考えます。少し前までは関東大震災を経験した方もおられました。記録や文献から得る知識よりも目の前に体験者がおられるのです。私達以上の環境はないので、置かれている状況を活かして行きます。

私は、「一人の人間は他にない小さな図書館である」と思っています。生まれて玩具が増え、本が入り、書棚になり、書庫になり、図書館になるのです。過去や歴史に学ぶということはこの図書館から知識を得なくてはもったいないです。

そして、その方が人生を終えることは「他にない小さな図書館」が一つ消えることとなります。大切に、大事に長く存在してほしいのです。法人職員はそのためにしっかりしたサポートをしていきますので、家族の方や、多くの皆様のご理解をお願いします。

以 上